

## 地域共生社会の実現に向けた福祉医療実践 ④

# 『安房地域医療センターの地域共生社会の実現に向けた福祉医療実践』

社会福祉法人太陽会 安房地域医療センター  
医療ソーシャルワーカー 田中 典仁

### 【病院の概要】

所在地：千葉県館山市山本1155番地  
設置主体：社会福祉法人太陽会  
病床数：許可病床数 一般149床  
診療科目：総合診療科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、膠原病・リウマチ内科、小児科、腎臓内科、腫瘍内科、脳神経内科、脳血管内治療科、糖尿病甲状腺内分泌内科、外科、整形外科、泌尿器科、乳腺外科、婦人科、スポーツ整形、皮膚科、救急科、透析科、リハビリテーション科、麻酔科、放射線科  
関連施設等：認定こども園OURS、企業主導型保育所OURS baby、安房医療福祉専門学校、太陽会キャリアカレッジ、訪問看護ステーションおひさま、特別養護老人ホームめぐみの里、介護老人保健施設たいよう、ケアハウスまんぼう、障害者支援施設しあわせの里、障害福祉サービス事業所らんまん、中核地域生活支援センターひだまり、フローレンスガーデンハイツ、パークウェルステイト鴨川、亀田総合病院、亀田リハビリテーション病院、亀田ファミリークリニック館山

### 【病院の基本方針】

1. 365日24時間の救急医療を提供いたします。
2. 患者さまを尊重した、安全で質の高い医療を提供いたします。
3. 地域住民の健康維持のために意義ある住民健診を提供いたします。
4. 職員の研修・研鑽に努めます。
5. 明るく、働き甲斐のある病院創りに努めます。
6. 地域の中核病院として、他の医療機関・福祉施設等との医療連携に努めます。

### 【地域生活課題の解決に向けた地域貢献（地域における公益的な取組等）の実践】

当院は、千葉県南端に位置し、三方が海に囲まれ、とても自然が豊かな場所にあります。高齢化率42.7%（令和2年4/1現在）ということもあり、外来・入院患者様の多くは高齢者です。2次救急の急性期病院でありながら、救急車受入れは安房保健医療圏で最多となることもあります。当院では、高齢化の進む地域において健康増進に貢献できるよう、ボランティア活動を実施しています。今回紹介させていただくのは、無料低額診療事業における健康相談・保健教育等活動の一環として、実施している下記

(1)～(6)です。

(1)みんなの健康教室

(2)食と健康

(3)認知症予防と運動

(4)あなたは大丈夫？冬のインフル・ノロ対策

(5)いざというとき役立つ！救急のはなし

～救急車いつ呼ぶの？

身近な人が急病になった時～

(6)機関誌の発行(安房カフェ通信)

地域住民との対話プロジェクト(愛称:awa-cafe Project)と名付けられたこれらの活動は、2016年に発足し、医師・薬剤師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・事務員・医療ソーシャルワーカーなど多数の職員で構成されています。

(1)～(5)は教育活動という形で、院内に地域住民を招き、半日かけて実施します。また、依頼があれば、公民館などへ出張講座も実施しています。前半に講義・体験を、後半にグループディスカッション・まとめを行う流れです。体験に力を注いでいますが、マンパワーも必要なため、参加人数に制限を設けて対応しています。参加者よりもスタッフの方が多いことがawa-cafe Projectの特徴の一つです。グループディスカッションにはスタッフ全員が参加します。地域住民との対話からスタッフも学び、仕事へのモチベーション向上に繋がっています。まずは、これらの教育活動について紹介します。

### **(1)みんなの健康教室**

ロコモティブシンドロームをテーマに医師・理学療法士から講義を実施します。その後、セラピストらによる体力測定等(手伸ばし測定・2ステップ測定・立ち上がりテストなど)を行い、測定結果を印刷し、参加者へ渡します。グループディスカッションでは、各グループで同じテーマ(例:今の私と運動・明日の私と運動など)について話し合い、発表します。まとめの時間には、参加者同士、自身の目標について

宣言し終了します。宣言することで、動機付けが高まることを期待します。

### **(2)食と健康**

テーマは減塩です。医師による「減塩と健康」について講義し、その後、管理栄養士による講義と食体験を行います。塩分チェック表を利用し、参加者の塩分摂取量についてセルフチェックし、参加前の塩分摂取の現状を把握します。減塩食の試食をしながら、塩分摂取目標量・減塩の方法など、お伝えします。グループディスカッションでは、「理想の食卓」をテーマに講義を踏まえ、調理や食べ方などを工夫する方法を話し合い、減塩に対して今後どう取り組んでいくかグループのメンバー間で宣言します。

### **(3)認知症予防**

医師による認知症予防の講義を行います。認知症とはどんな病気なのか、認知症の種類、介護保険サービスなどに触れます。次にリハビリスタッフによる、認知症予防のための運動について講義を行い、腕ふりと足踏みを繰り返すなど体験してもらいます。グループディスカッションでは「認知症になっても暮らしやすい社会・サービスを考えよう」をテーマに地域住民とスタッフとの対話を通じて「認知症」に対する想いを言語化します。

### **(4)あなたは大丈夫？冬のインフル・ノロ対策**

薬剤師からインフルエンザやワクチン、感染性胃腸炎などの講義を行います。体験では、看護師から正しい手洗い方法の指導と手洗いチェッカーで参加者の手洗いの癖を確認します。意外と洗えていない部分があるという気づきを得ていただきます。グループディスカッションでは、感染予防の啓発ポスターをグループ毎に作成し、参加者の周囲への波及効果も期待します。

**(5) いざというとき役立つ！救急のはなし  
～救急車いつ呼ぶの？**

**身近な人が急病になった時～**

救急車の適正利用についての講義を医師から実施します。その後、実際に胸骨圧迫人形・練習用AEDを用いて、救急センター長による心肺蘇生の講習を行います。グループディスカッションでは、救急車の適正利用について話し合い、どんな症状が出たら救急車を呼ぶべきか相互に確認します。

**(6) 安房カフェ通信**

ここまで紹介した活動は、新型コロナウイルス流行に伴い、現在実施困難な状況です。しかしながら、ウィズコロナというスタンスから新たな企画が必要と考え、今年度からは機関誌を活用した形で地域住民の健康増進を側面から支える活動を展開することにしました。内容は、awa-cafe Projectの紹介・医師による「受診・検診控えの注意喚起」・薬剤師による「感染予防」について記事にしました。送付先は、これまでにawa-cafe Projectの企画にご参加いただいた

方などをベースにしています。アンケートも同封し、コロナ禍における外出の機会、健康教室で学んだ内容を現在も実施しているか、本活動に期待することは何かなどの項目を盛り込み、次の活動へのヒントを得ることができました。

**awa-cafe Projectの特徴**

ボランティアスタッフには外部の方の参加もあります。他機関の保健師・管理栄養士の方々と共に体験し、地域住民の方々との対話から学びを得ています。企画・構成はコアメンバーで作りますが、グループディスカッションのテーマは、若いスタッフが企画したり、教育テーマによっては様々な職種・年代が主役になり、多種多様な内容を楽しむのも醍醐味です。参加者は、住民だけでなく、施設職員や実習中の学生、行政代表としてご参加いただく方もいらっしゃいます。リモートが主流となりつつある昨今、今後の展望は、かつて活動を共にした、スタッフとの企画です。地域を超えた新しい地域貢献の在り方について模索しています。



病院外観